

## 公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU)

### 2021 年度 (令和 3 年度) 第 3 回定時理事会 議事録

[1] 開催：2021 年 9 月 8 日 (水) 13:00～18:45

- ・方式：インターネット・ウェブ会議／実会議方式の併用
- ・運営会場：Japan Sport Olympic Square7 階 708 (新宿区霞ヶ丘町)

[2] 出席 (理事 26 名、監事 3 名)：

岩城光英、仲井公哉、大塚眞一郎、中山正夫、鈴木貴里代、

(以上、理事 5 名会議室出席)

飯島健二郎※、山倉紀子※、岸田吉史、和田知子、石井なおみ、

菊池日出子、関根明子、森幸、佐藤圭一、富川理充、村瀬訓生、

山根英紀※、齋藤れい (14 時より出席)、豊岡正康、大関辰郎、園川峰紀、

島津寿江、宮本悦子、大野徹雄、須山浩光、村上幸生、宮城直久

(以上、理事 21 名オンライン出席)。

※) フランス滞在中で別プログラムのため 15 時退席。

荻原政吉 (15 時より出席)、秋山智昭、齊藤栄太郎 (以上、監事 3 名)

- ・オブザーバー (2 名) 中山俊行 (オリンピック対策チームリーダー)、  
平松弘道 (マルチスポーツ対策チームリーダー)
- ・事務局出席 (9 名) 坂田洋治、児玉健太、長江千明、土屋佳司、小池賢、  
萩原舞、大岩葵、内藤裕也、島村直子

[3] 議事の経過

JTU 定款第 6 章 (理事会) 第 34 条 (決議) により、ウェブ会議進行役の児玉事務局次長が、一時離席時の申告など進行上のお願いの後、理事出席を一人ずつ確認し、定足数を満たしていることを報告した。定款 33 条 (議長) により、岩城会長が議長として開催宣言を兼ねた挨拶を行い、同第 23 条 (理事の職務及び権限) による会長及び業務執行理事の職務執行状況が報告された。その後、定款第 35 条 (議事録) により、岩城会長、荻原監事、秋山監事を議事録署名人、大塚専務理事、宮本理事を議事録確認者とし、議事録作成者に事務方を指名し、議案の審議に入った。

[4] オリンピック・パラリンピック総括

1) オリンピック対策チーム総括

標題について、中山俊行オリンピック対策チームリーダーより報告があり、飯島副会長、大塚専務理事より補足と労いの言葉があった。

#### <総括要旨>

- ・ 男女個人競技、ミックスリレーにおいても目標達成には至らなかったが、選手は各々全力で戦った。男子は、ナショナルチーム体制と国際連携により2選手共20位以内に入り、世界との差を詰めることができた。一方、女子の個別強化は、スイム先行で世界がレベルアップする中、予定の8位以内入賞はかなわなかった。ミックスリレーは、実践経験が足りず課題を残した。2024パリに向けては、ポイント獲得と海外の競技環境に順応するために、強化拠点をヨーロッパ中心とし、限られた強化費の中で目標を達成するために選択と集中が必要となる。
- ・ オリンピック挑戦への最大のサポートに感謝したい。大会の1年延期によるメリット・デメリットがあった。今後は、国際競技力向上のために、海外を拠点に転戦するなど、出場枠獲得ポイントを意識しなければならない。タレント発掘育成でも低年齢からのスカウティングなどにより、将来へのロードマップを描くことが重要となる。
- ・ J T Uがワンチームで戦ったことで強化の根底が出来上がり大きな財産となった。今後、これまで培ったノウハウ、育った人材を次に活かすことが、トライアスロン・パラトライアスロンを支援する全国の関係各位への更なる恩返しとなる。

#### 2) パラリンピック対策チーム総括

標題について、富川パラリンピック対策チームリーダーより報告があり、飯島副会長、大塚専務理事より補足と労いの言葉があった。

#### <総括要旨>

- ・ 銀銅メダル獲得に加え、2選手が6位入賞を果たした。メダル獲得を逃したりオ大会に比べて飛躍的な結果を残した。この成果への要因は、①強化体制の見直し、②次世代ターゲットアスリート育成事業予算の活用、③エビデンスに基づく強化、④オリパラの連携、⑤目的に応じた活動場所の選択、といえる。2019年のOQE以降、土田和歌子選手の障がい軽度クラスへの変更があり、目標達成のマイナス要因となった。2024パリに向けては、選手発掘・育成体制の整備、既存スタッフの資質向上、即戦力新規スタッフの発掘と登用などが課題となる。
- ・ 未知の部分が多く試行錯誤の連続だったが、手厚いサポートを受け感謝したい。メダル獲得は、トライアスロン関係者全体に勇気とモチベーションを与えてくれた。
- ・ J T Uはオリパラ両方をすべての面で統括している唯一の団体であり、オリパラ合同トレーニングによる相乗効果でJ T U設立以来の素晴らしい結果がもたらされた。皆でこの栄誉を讃えたい。

### 3) 大会運営総括

標題について、鈴木常務理事から報告があった後、事務方より大会組織委員会へ派遣出向したスタッフの紹介と、大塚専務理事による労いと総括があった。

#### <総括要旨>

- ・ コロナ禍の中、無観客開催の無念さはあったが、今ある環境の中で最大限の開催ができた。暑い中で競技運営を支えたスタッフ・ボランティアをはじめ、トライアスロンファミリーの皆さんに心から感謝したい。IOC、IPC の会長が来場し、素晴らしい競技運営との高い評価を受けた。大会開催の努力に応えるかのように、選手が素晴らしいパフォーマンスを発揮した。強化チーム関係者に敬意を表したい。組織委員会派遣スタッフ、IF、JTU、すべてのトライアスロンファミリーがワンチームとなり成功につながった。東京お台場で開催ができ、トライアスロンの魅力を伝えることができた。5 年間の貴重な経験を今後のレガシーとして大会運営、トライアスロン普及発展に生かしていきたい。
- ・ 東京 2020 への JTU のチャレンジは、メダル獲得とともに、IF、IOC の受け手となって長年築いてきた大会運営をこなしていけるかだったが、皆がそれぞれの経験を活かして見事にやりぬき、大会運営は大成功だった。この経験をいかにフィードバックし、今回の人材リソースのレガシーをどう活かせるかが課題となる。

### [5] 議案

#### 第 0 号議案) 前回理事会議事録承認

2021 年度第 3 回臨時理事会の議事録案について、メール回覧済であるとの事務方の報告があり、質疑などないことが確認された後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・ 承認事項) 2021 年度第 3 回臨時理事会 (2021 年 7 月 8 日開催) 議事録案

#### 第 1 号議案) 東京 2020 パラリンピック競技大会 報奨金・他団体への表彰推薦

標題について事務方の報告があり、質疑などないことが確認された後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・ 承認事項) 東京 2020 パラリンピック競技大会報奨金

説明骨子) 前回理事会で承認の通り、銀メダルの宇田選手に 200 万円、PTVI の選手がメダルを獲得した場合、支給する 100 万円はガイドを含む額としたことから、米岡選手と椿ガイドへの支給額は 50 万円ずつとする。スポーツ庁通達により非課税対象となる。

#### 第 2 号議案) 2021 年 10 月以降の強化全体戦略プラン

標題について事務方と山根理事（ハイパフォーマンスチームディレクター承認後）から説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

・承認事項 1) ハイパフォーマンスチームメンバー・専門スタッフ案

説明骨子) ハイパフォーマンスチームディレクターに山根英紀理事、アシスタントディレクターに山倉紀子常務理事と外部人材の流入促進として近藤邦宏氏（9月未までJSC在籍）の2名。海外拠点の専門スタッフに福井英郎 JTU コーチ委員会アドバイザー、情報医科学スタッフに生田目颯情報戦略医科学委員（筑波大学研究員）を配置する。なお、新体制の配置における諸条件等をあらためて理事会にメール回覧を行うことが条件であることが補足された。

・承認事項 2) ハイパフォーマンスチーム強化戦略プラン

説明骨子) 目標設定は、男子 8 位入賞、女子は最低 9～12 位の確保とし、ミックスリレーでは世界で戦えるように個々の選手の強化を重視。高地拠点でのトレーニングの継続、海外トップ選手・グループとの連携、種目別強化、情報医科学スタッフの分析・情報収集のサポートを受けつつ、ノルウェーシステムの活用を継続し、ワールドクラスコーチの指導を受ける。

・承認事項 3) ワールドトライアスロン・アジアトライアスロン公式大会 JTU 出場推薦基準（案）

・承認事項 4) JTU ハイパフォーマンスチーム・リージョナル育成事業（2021 年度下期）

・承認事項 5) ワールドトライアスロン・ジュニア選手権（2021/バミューダ）選考基準（変更）案

・承認事項 6) 2021 年ワールドトライアスロン・デュアスロン選手権（エリート/23/ジュニア）選考基準<変更>案

・承認事項 7) 第 11 回ワールドゲームズ（2021/バーミングハム）選考基準<案>

補足説明) 標記大会への出場推薦はランキングを中心に進めるが、ランキング外の選手に出場機会を与えるために、前回理事会承認の基準に次の追記を行う。

追記内容) 「出場資格を有する選手がすべてスタートリストにリストアップされたのちに定員割れとなっている場合、出場資格を有しないワールドトライアスロン・ランキング 141 位以下の選手から出場推薦することがある。」

第 3 号議案) マルチスポーツおよびエイジグループ関連

標題について、平松マルチスポーツ対策チームリーダーより報告があり、質疑などないことが確認された後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

・承認事項) マルチスポーツ対策チーム関連 2022 年規程案

1) 2022 年クロストライアスロン エリート/U23 日本代表選手基準（案）

2) 2022 年ウィンタートライアスロン エリート/U23 日本代表選手選考基準（案）

3) 2022 年ロングディスタンス・トライアスロン強化指定制度 (案)

4) 2022 年ロングディスタンス・トライアスロン公式大会エリート出場基準 (案)  
・継続審議事項) 2022 年ロングディスタンス・トライアスロン世界選手権出場基準/  
aianマンプロ登録証明書発行基準 (案)

説明骨子) ロングディスタンスについては強化指定制度があるが、コロナにより大会の開催がないため、対象期間を 2019 年から 2022 年の 4 年間とする。ロングの出場基準についても同様の理由により、推薦条件でロングの成績以外にミドルのバイクタイムトライアルレースやマラソンのタイムを入れて追加修正を行った。クロスとウィンターについては前年度の基準を踏襲している。

補足説明) 海外のエイジグループの大会はコロナ対応で厳しい制約があるため、JTU としては現在派遣を行っていない。

#### 第 4 号議案) 大会・事業関連

##### 1) 大会関連

事務方より、9 月以降の国内大会状況及び主催・共催大会での COVID-19 対応方針について報告・説明があった後、日本選手権のエリート・U23・U19 同時開催について質疑応答が行われ、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

・承認事項 1) 2021 年度日本 U19 選手権をエリートと同時開催する案

説明骨子) U19・U15、高校生選手権の中止を受け、次世代を担う選手の成果の場を設けることを目的に、宮崎の日本選手権で U19 男女のレースを開催する。コンパクトな大会にするために 4 カテゴリーともスプリントで実施したいが、アスリート委員会からスタンダードディスタンスを希望する意見もあるため、距離やカテゴリーについてはイベントチームと強化チームが協議して決定する。

・承認事項 2) 主催・共催大会における COVID-19 対応方針

説明骨子) 海外大会でワクチン接種が参加条件となる流れを受けて、国内大会においてもすべての選手、TO、役員、メディアに対してコロナ陰性証明の提出を求める方向で、内容の詳細をメディカル委員会と協議する。

・承認事項 3) 横浜大会の 2021 年財務計画

説明骨子) 2021 横浜大会への JTU 負担は、スポンサーの増加などもあり、5000 万円として JTU オフィシャルパートナー協賛金から捻出する。(2019 年度は約 2250 万)  
\* 横浜市負担金と同額。

支出は、コロナ対策関連費用の増加などからキャッシュフローの潤滑による国庫補助金の適正活用を目途に、大会組織委員会の要請により JTU が横浜銀行から 1 億円の借入を行い、組織委員会の支出に充てること。(11 月借入 5 月返済)

\* 社員総会書面議決による短期借入枠の増加承認を取り行う。

- ・承認事項 4) 世界トライアスロンシリーズ横浜大会 3 年契約の締結

説明骨子) ワールドトライアスロン、横浜大会組織委員会、JTU の 3 者による 2022 年から 2024 年までの大会開催長期契約を 7 月 26 日付で締結する。

以上、承認事項 3) 4) に関し、大塚専務理事より説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

## 2) 事業関連

岸田常務理事より、2021 年セミナー・フォーラム関連事業計画についての報告と、加盟団体の法人化やガバナンスコードの対応についての講義を中心とする JTU 加盟団体実務者会議（仮称）の開催提案があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・承認事項 5) J T U加盟団体実務者会議（仮称）の開催

### 第 5 号議案) 専門委員会関連（委員の追加・ED&I 委員会の設置）

標題について、大塚専務理事より説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・承認事項 1) 専門委員会委員の追加

説明骨子) 現段階での各専門委員会の委員長、副委員長、委員の構成で進め、担当理事は相談の上最終調整する。

- ・承認事項 2) ED & I 委員会の設置

説明骨子) Equity, Diversity, Inclusion の課題を扱う委員会設置のためのプロジェクトチームを岩城会長の下で結成し、委員会の構成を検討する。

### 第 6 号議案) JTU 中長期計画の策定（協力会社の提案）

標題について、事務方からの経緯説明の後、コンサルティング会社の担当者による中長期計画の策定に向けての提案説明を受けて質疑応答が行われた。様々な意見を踏まえ、委託内容、費用面等をさらに検討することとした。

#### <主要意見>

昨年のガバナンスコードの策定後、客観的な評価が求められている。専門家を入れることがさらなる発展に必要と考え、トライアルとして提案している。全体として、現在のトライアスロン・パラトライアスロンに係る状況や知識を専門的見地から、より魅力的に集約することである。全体のマーケティングの金額からしたら妥当な額の投資といえるのではないか。また、他社を含めたプレゼンによる競合は可能であり、別途検討する。この時期に推進する必要性についての意見と共に、JTU ファミリーとして地方に合った取り組みにも目を向け、日本全体のチームワークがとれるように

早期実施をめざす提案もあった。

#### 審議進行に関わる確認)

議長に代わり事務方が、審議に関わるインターネット接続等において聞き取れなかったことや、発言できなかったことなどがなかったかを確認した。格別な発言がなく、インターネットによる議事進行は滞りなく行われたことを確認し報告した。

#### [1] 報告

##### 1. 危機管理事象/通報相談案件/ガバナンス対応

- ・ 緊急事態宣言が解除になるまで、JTU 事務局は在宅勤務を基本としている。
- ・ JTU が環境整備違反により共同被告になっている訴訟案件は、現在も継続中である。
- ・ 通報相談事象 2 件のうち、鹿児島国体選手選考の案件は県協会の自助努力で対処した。石垣大会選手代替え出場案件は、該当する二つの各加盟団体で実施予定のヒアリング結果を倫理委員会で審議し、対応について理事会に諮る。

##### 2. 財務状況と 2021 年後期シナリオ

- ・ 2021 年上期は横浜大会を開催することができたが、下期は 10 月以降に協賛金や参加料の返金があるため計上収益の損失が想定される。
- ・ 2021 年度決算の見通しは、プラン C の 25%ダウンがぎりぎりのシナリオだが、新たなマーケティングプランやデジタル施策による収入増にも期待する。一方、“トライアスロンジャパン”のサブネームの CI、ロゴ変更等による計上費用の増加も見込まれる。
- ・ 大会がないのに登録料を納めることに納得がいかないという意見に対しては、登録料は中央協議団体の組織運営、選手育成、環境整備に使われており、大会参加のためだけではないと丁寧に説明している。

##### 3. デジタル施策状況

富士通・スポーツ庁との連携により、登録会員のリザルトやダイレクトメッセージ等の機能を調整中。

##### 4. マーケティング関連

- ・ オリパラに関連して、パートナーの皆様に対し、応援 T シャツやピンバッジの製作・配布等、トライアスロンファミリーとして一体感をもった応援を展開した。
- ・ 主要パートナーへの支援協力のための訪問を開始、代表選手の協力も得て、トライアスロン・パラトライアスロンの価値を高めるための活動を行っている。オリンピック・パラリンピックの報告書も制作中。

##### 5. 各専門委員会会議の予定

- ・ 各専門委員会の担当理事の設定と会議の開催
- ・ 10月-12月にブロック会議の予定

6. その他

- ・ 9月のジャパンビーチゲームフェストの今年度は開催なし。来年のマウント富士トライアスロン in 富士河口湖の開催に向けて実行委員会がスタートした。(園川理事)
- ・ 円尾選手のガイドとして最大限の準備をしてパラリンピックに出場し、あの舞台に立てただけでも感激した。コロナ禍での大会開催は大変だったと思うが、今までにない経験ができ、感謝している。(菊池理事)

[6] 次回定時理事会 2021年12月8日(水)開催予定

[7] 閉会宣言

仲井筆頭副会長の挨拶の後、本日の理事会すべてが終了したことが告げられ、18時45分に閉会した。

議事録署名と確認：

(岩城光英・議長・会長・代表理事)	(印)	2021年	月	日
(荻原政吉・監事)	(印)	2021年	月	日
(秋山智昭・監事)	(印)	2021年	月	日
(大塚眞一郎・専務理事)	(印)	2021年	月	日
(宮本悦子・理事)	(印)	2021年	月	日